



## ドリームプラン活動実施報告書

造形表現学科 3年

Y.A. M.A. Y.H. N.A.

### 正夢 ガチャ とは？

プロジェクトのメンバーであるY.H.はある夜、身長程もある特大のガチャガチャを制作してオリジナルのグッズを販売したら売り切れたという夢をみました。

その話を聞いたとき、せっかくなら正夢にして、その時の夢のように、ガチャガチャマシンを通して、自分の作品が誰かの手に渡るという経験をしてみたいと考えました。1、2年次には新型コロナウィルスの影響もあり、「自分の作品を世に出してみたい」と考えていても機会、勇気がなかった学生が多くいます。ただの夢を正夢にすることで、私たち学生が一步踏み出すきっかけとなれたらと考え応募しました。

積極的にさまざまなイベントに参加することで、まずは「自分の作品が知らない誰かの手に渡る」という経験をしたいです。また、造形表現学科には、「自分の作品を世に出してみたい」と考えていても機会、勇気がない学生が多くいるので、そんな学生たちが夢を叶えるきっかけになりたいです。

### ゆめを売ります。

ガチャガチャマシンはむかしから、子供の夢でありロマンでした。

しかし、近年はガチャガチャ専門店の増加やシユールなミニチュアのガチャガチャの増加など、大人にも人気のコンテンツになってきています。Y.H.の夢を正夢に。私たちの夢を現実に。そして見かけた人や回した人に夢を。

概要	自分達で制作したハンドメイド作品やグッズを、ガチャガチャマシンを用いて販売する。
価格設定	500円/1回
ターゲット	子供、若い女性
設置方法	イベント会場やギャラリーに設置。企画者1名以上が定期的に消毒、清掃。
メンバー	4人 (Y.A.) (M.A.) (Y.H.) (N.A.)

## 活動内容

制作したガチャガチャを、2箇所、合計4日間販売しました。

	実施日	場所	イベント名
1回目	2023年1月21日・22日	代々木公園 ケヤキ並木	Earth garden “冬” 2023
2回目	2023年2月11日・12日	小金井市商工会 商工会ギャラリー	正夢ガチャ（単独イベント）

## 販売のうちわけ

イベントごとの販売数量のまとめです。

### 【1回目】

Earth garden “冬”2023

制作者名	1日目			2日目			合計
	10:00~12:00	12:00~13:00	13:00~16:00	10:00~12:00	12:00~13:00	13:00~16:00	
Y.A.	2	2	1	0	0	4	9
M.A.	0	1	1	1	3	1	7
Y.H.	欠席						0
N.A.	0	0	3	0	1	2	6

### 【2回目】

単独イベント（東小金井）

制作者名	1日目		2日目		合計
	12:00~14:00	14:00~16:00	12:00~14:00	14:00~16:00	
Y.A.	1	0	1	5	7
M.A.	1	1	0	5	7
Y.H.	0	0	0	8	8
N.A.	0	0	0	6	6



## 【1回目】

Earth garden “冬”2023 の様子



## 【2回目】

小金井市商工会 商工会ギャラリーの様子



## 【制作物】 Y.A.

イベントに向けて客層や設置方法を想定し、ロゴやアイコンのデザインをしました。

### ロゴとアイコン



### 販売する商品のイメージ



### 企画に統一感を持たせるためのアイデア



## マシンイメージ



## 実際に使用した作品



## 展示風景



## 感想

今回、ガチャガチャイベントを4人で企画、制作してみて、自分の作品が、誰かの目に触れ、購入していただくという貴重な体験をすることができました。

はじめは単に「ガチャガチャを作ってみたい！」という思いがきっかけで発足した「正夢ガチャ」でしたが、Y.H.さんのみた夢の通りの、「長蛇の列」とはいかなかったものの、たくさんの人々に自分の作品を見ていただくことができたため、挑戦してよかったです。

購入してくださった方や、通りかかった方などから、「なにこれ、おもしろい」「ぱっちりだって、うける」「かわいい！」などの嬉しいお声をいただくこともあれば、「高すぎる」「男の子向けのものが1つもないのか...」と言ったすこしマイナスなご意見をいただくこともあります。また、フィードバックを沢山得ることができました。大学の授業では自分の想定したペルソナを喜ばせるための制作がメインで、実際に、「全く知らない人」を相手に何かを販売したり、イベントを行ったりすることは少ないので、日常生活では滅多に体験することのない貴重な学びになったのではないか、と感じています。

また、「正夢ガチャ」がきっかけで、偶然にもガチャガチャの台紙を制作していた経験のあるデザイナーの方のお話を伺うこともできて、「買いたくなるデザイン」とは何か、もっと売れるようになるためにはどうすればよかったですのか？について、作品のデザイン面や立地、ターゲティングの大切さについてなど、幅広く考えるきっかけになりました。

「正夢ガチャ」で得た学びを活かし、これからも個人的にイベントに参加したり、個展を行ったりするなど、創作活動を続けていくことができたらと考えています。

## 【制作物】M.A.



### 感想

今回このイベントを通して、先を見通し、計画を立てることの重要性を感じました。メンバーの一員としての自覚を持ち、イベントをより良くするためにどの様な事ができるのか、現在どの様な課題があるのかなど把握する事が大切だと感じました。

アースガーデンに参加した際、お客様がガチャガチャの表紙を見て購入していただく事がありました。一目で伝わりにくいデザインであることに気づき、東小金井駅で開催したイベントでは写真の枚数を1枚に減らし、一目で伝わるように工夫しました。それにより、通りすがりの人にも関心を持っていただく事ができました。また、アースガーデンに出品した作品は一貫性がない作品だったため、東小金井駅ではパールビーズのみを使用した作品に変更しました。サンプルを吊るすなど興味を持ってくださった方に対し購入に踏み込んでいただけるよう努力しました。

途中、金額を変更したり、1回につき2リングにしたりと工夫をしましたが、売り上げは変わりませんでした。今回のイベントを通して、こういったアクセサリーなどは試着ができ、一つ一つに対し作者の想いが込められている事が重要であると気づきました。今後は作品に対し真摯に向き合い、ガチャガチャといい販売形式と相性のいい作品の制作や、平置きであるからこそ魅力が高まる作品の制作など、作品がより魅力的に感じるような販売形式を模索していきたいです。

## 【制作物】N.A.



### 感想

正夢ガチャにご支援をいただき、実現したことでの、実際に自分たちで考えて行動することの難しさや、夢に描いたことが形になる嬉しさを感じることができました。  
自分の活動を振り返って、良かった点としては、売れるデザインについて研究し、満足いくデザインに仕上げられたことです。

実際に販売されている商品について調べ、どのようなデザインだと見やすくて購入したくなるかを考えました。考えた結果、大きくイラストを掲載し、柔らかな色味で統一感を出すことで、商品の良さが伝わるようなデザインにすることができました。実際に通りかかった方々にも褒めていただけて、満足いくものができました。

反省点としてはSNSをうまく活用することができず、宣伝が甘かったということです。知っていたら行きたかったという意見をいただき、イベントを自分達で開催する場合は、ただ開催日までに作品を用意すればいいというものではなく、それを知つてもらうための宣伝活動にも力を入れる必要があることを痛感いたしました。今後イベントを開催する際は、宣伝にも力を入れ、今回の学びを活かしていきたいと思います。

【制作物】Y.H.



### 感想

今回、「正夢ガチャ」を通して、初めて夢を正夢にすることことができました。何気ない日常の何気ない私の一言を「おもしろい！」と友人に汲み取ってもらっていたら実現しなかった取り組みだと思います。実際、再現してみると金銭面や土地の現実的な問題が生じたり、マーケティング力や広報力など力が試されたりと考えないといけないことが想像より多かったです。改めて、脳内の理想を現実で表現するとの難しさを感じました。

1回目のアースガーデンでの開催時、私は体調不良で参加できませんでした。開催直前で体調を崩してしまったため、仲間にも大変迷惑をかけてしまいました。「正夢ガチャ」の作品の用意や大学での課題、アルバイト、インターン、サークルと多くの予定が詰まっていたことが原因だと考えられます。計画的に毎日の生活をこなしていくことが課題だったと感じます。

今回、成功したことよりも反省や課題点の方が正直多いですが、その分学べたことも多かったです。学外で活動できる機会を頂いて、作品を作るだけでなく、マーケティング方法など興味の幅を広げることができました。今後はこの活動で得た知識や経験を活かし、学外での取り組みにも積極的に挑んでいこうと考えています。

## 全体のまとめ

今回、後援会の方々にドリームプランとして採用していただき、初めて自分の作品を世の中に売り出してみたことで、たくさんの学びと、なによりも、「現実は夢のように甘くはないけれど、努力すれば夢を現実にすることはできる」という希望を得ることができました。

今回、「正夢ガチャ」というプロジェクトとして、メンバーのうちの一人が見た夢を現実にしてみた結果、夢の中では、

『自分のオリジナルのハンドメイド作品が入った巨大なガチャガチャマシンの前に長蛇の列ができ、たくさんの人から購入され、愛されるイベント』

でしたが、いざ現実のイベントにしてみようすると、巨大なガチャガチャマシンをレンタルするには莫大な予算がかかってしまう上に、理想的な場所の確保は難しく、どこまでを夢の通りにして、どこを妥協するか、という現実的な問題に幾度となく直面しました。

しかし、ターゲットに刺さるデザインとは何かを考え、ガチャガチャの表紙や台紙のデザインをしたり、ガチャガチャの専門店に偵察に行き、売れているガチャガチャマシンの共通点や、特徴を調べたりするなど、「造形表現学科の学生として」できるアプローチ方法で、たくさんの人に愛されるイベントにできるよう工夫を重ねたことで、たった4日間の展示で、合計50個ものプライズの販売に成功しました。

今回の全4日間のイベントでは、夢の中の長蛇の列とまでは行きませんでしたが、商品のPR方法や、立地選び、ガチャガチャという販売形式のメリットデメリットなど、「正夢ガチャ」としてイベントを開催したことで見つかった課題を踏まえ、再度イベントを行うことができたら、「長蛇の列ができ、たくさんの人から愛されるイベント」の実現も夢ではないと思います。

この経験を「ドリームプランの正夢ガチャ」で終わらせることなく、

今後、自分の作品を世に出していくたいと考える私たちの「はじめの一歩」として、今後の制作に繋げていきたいです。

本イベントの開催にあたり、東京家政大学後援会の皆様に、多大なご協力頂きました。

ここに感謝の意を表します。誠にありがとうございました。